

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191300025		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホームさかほぎ 1F		
所在地	岐阜県加茂郡祝町酒倉1296-1		
自己評価作成日	平成27年 9月30日	評価結果市町村受理日	平成27年12月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyouNoCd=2191300025-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成27年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年に引き続き臨床美術+タクティールケア+日常的な支援(個別支援)+今回も地域との交流・家族との交流に力を入れ実施しております。地域の方々・ご家族様とも多くふれ合う機会を設け地域の方々やご家族様が気軽に遊びにこれるような、地域とご家族様・ご利用者様の笑顔をつなげるように…という思いでスタッフ一同取り組んでいます。

その人らしく、普通の生活を送っていただけるように…そして一人でも多くのご利用者様に「ここにいる良かった」と言っていたただけるように、笑顔溢れる明るいホームづくりを目指し、日々支援・ケアをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの理念である「笑顔と笑顔の橋渡し」は、全職員が共有し浸透している。家族や地域とのつながりを大切にし、家族とは常に利用者を考え報告や相談を行っている。ホームの行事や家族会の参加を勧め、利用者の誕生日には家族同行の外出をコーディネートし、家族はホームの誠意に応じて共に利用者を支え、利用者、家族、職員の笑顔の関係を築いている。

当時中学生の孫がクラブ活動に夢中であったことを利用者から聴き取り、学校に働きかけてクラブ活動の見学を叶え、今では見学に限らず中学校との交流に発展させている。同様に孫を送り迎えた保育園、幼稚園との交流を開始している。地域の花火大会の見物は行政と相談し、昨年から駐車場、見物席の確保の協力を得ており、着実に利用者、家族、地域、職員の笑顔の橋渡しを進めている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『笑顔は笑顔の橋渡し』という事業所理念に基づいて、そのひとらしく笑顔溢れる明るいホームづくりをスタッフ同士心掛け声をかけ合いながら支援・ケアを行っています	ホーム独自の理念を玄関に掲示し、家族あての便りに毎回理念を印刷し、職員に限らず広く周知している。管理者は職員の毎日のミーティングの時間に理念を取り上げ、実践に反映するよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・お隣にDSと行事を行ったりし交流を図っています ・地域の行事に参加したり、またホームの行事に地域の方々に参加していただいたりしています	利用者の買い物や散歩外出は、地域の知人と出会い交流する機会である。地域の保育園、幼稚園の園児が訪問し、中学校の見学交流の後には、別れを惜しんで涙を流す利用者の姿もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの行事には地域の方々にも参加していただいたりしています。認知症キャラバンメイトの研修を受講し地域の方にもっと認知症を知っていただこうと思っています。福祉バスの活用や、公園の整備・ラジオ体操等にも参加しています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し日常のケアについてや取組・行事の報告等行い、ご意見等いただきケアの向上に活かしています ・年に1回の家族会も実施しております	利用者、家族、地域、行政の参加する会議は行事と同日開催とし、多くの参加者を得ている。看取り体制、看取りの振り返り等、ホームの運営の重要テーマを取り上げ、参加者の意見を実践に反映するよう努めている。	会議の議事録に参加者を明記願いたい。また、誰もが会議の内容を理解できるよう、更に詳細な議事録作成を望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から連絡は密にとっています。事業所連絡会議に参加したり、事業所の運営推進会議にも参加していただいたり情報共有しながら協力関係を築くように取り組んでいます	行政主催の「介護者の集い」に関わり、ホームの専門知識を提供して地域に貢献している。「事業所連絡会議」のメンバーとして、地域包括支援センター、社会福祉協議会、地域の福祉事業者と交流している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッド柵・居室の施錠・玄関の施錠・身体拘束等の指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を理解し、ケアに取り組んでいます	拘束をしない介護について法人研修とホーム内研修を実施し、職員は十分な知識を有している。原則施錠はせず、ホームの出入りは自由である。帰宅願望の強い利用者は、職員と出かけて気分を変えることで心を納めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のホーム会議にて、ホーム内研修を行い、事業所内での虐待がないよう注意を払い、防止に努めています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修にて日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ちました		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約や退居時、また契約書の改定の際は、利用者や家族に不安や疑問点を尋ねながら説明を行い、理解・納得が図れるように努めています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来られた際や電話連絡があった際等、家族の意見・要望等を伺い、内容をスタッフ間で共有しながら運営に反映できるよう努めています。また家族へのお便りのなかでスタッフから家族へ情報の伝達も行っています。お便りも工夫しています	利用者と家族の関係の継続を大切に、ホーム行事、運営推進会議、家族会への参加を勧めている。利用者の誕生日は家族に相談し、家族と外出する機会とするなど、相互に遠慮なく意見を表す関係を築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のホーム会議・ユニット会議にて、スタッフの意見・提案を聴く機会を設けています。その他にも年に1・2回ですが、食事会などにて親睦を深めています	月1回の職員会議、各ユニットの会議を実施し、職員は忌憚のない意見を表している。ベテラン職員の多いことから、互いの信頼関係を醸成して気兼ねなく意見の言える職場としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフに自己評価・管理者評価を行ってもらい、スタッフの個々の努力・実績・やりがいなど、各自が向上心を持って働けるような職場環境づくりにつとめています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの研修等の機会を持ち、向上心を持てるよう努めています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のホームや施設を訪問したり合同レクを行うことで、良い点を取り入れ、サービスの質の向上に努めています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際はアセスメントを行い、本人が困っていることや不安なこと・要望等を傾聴し、本人が安心して生活できるような環境・関係づくりに努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際はアセスメントを行い、家族が困っていることや不安なこと・要望等を傾聴し、関係づくりに努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族がまず必要としている支援を見極め、医療・サービス等対応できるよう努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは、日常生活の中で利用者ができることを見つけ情報を共有し、声かけしながら行っていたりよう努めています。また一緒に寄り添いながら行うことで、暮らしを共にする者同士の関係を築いています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切に考え、毎月身元引受人に限らず、他の家族にもお手紙・お便りを送っています。手紙は手書きにこだわり、お便りは表情や様子がよりわかりやすく伝わるようにしたりご家族様からの意見も反映させるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の祭りや行事にできるだけ参加していただき、馴染みの方々との交流ができるよう支援に努めています。ホームの方にも地域の方々に来ていただき、関係が途切れないよう支援しています	日本海への海釣り外出、カラオケ外出、喫煙、飲酒、新聞の個人購読、編み物と多くの趣味、習慣の継続を支援している。ホームに利用者の友人、知人が訪問しており、呈茶を行って利用者との交流を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、関わり合い・支え合えるような支援に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、病院や施設に会いに行くように努めています。これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて今後も相談や支援をしていきたいと考えています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用しながら、利用者の思いや希望・意向の把握に努めています	利用者の生活歴、気づいたこと、人柄などを把握して記録し、思いや意向を掴むヒントとしている。職員は利用者に寄り添い、会話や仕草から把握した思いや意向を所定の介護記録に記し、全職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用しながら、利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、また生活環境など本人や家族に伺いながら把握に努めています。スタッフ間で情報共有できるようにもしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、朝・夕に申し送りを行い、ホーム全体で情報共有できるようにしています。各フロアで今まで送りノートが1冊ずつありましたが、1冊に1本化し、ホーム全体で18名の利用者を支援していくという姿勢で現状の把握に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに見直しの際、フロアスタッフがモニタリングを行い、家族・スタッフがサービス担当者会議を開き、現状に即した介護計画を作成しています	全職員のモニタリング(プラン実施の検証)を実施し、3ヶ月を基本にプランを見直している。プランの作成に際しては、利用者、家族の意見の反映に努め、利用者個別の思いを反映したプランとなるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日報・介護記録に記入し、スタッフ間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況・ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない柔軟な支援やサービスに取り組んでいます。タクティールケアの実践もケアに取り入れています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	坂祝町の幼稚園・保育園・小学校・中学校との交流ができ、ボランティアの方々も増えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及び家族の希望を大切にしながら、馴染みのかかりつけ医等に月2回往診に来ていただき、適切な医療が受けれる体制を築いています	かかりつけ医は利用者、家族の希望医として、ホームの協力医は認知症の良き理解者として看護師、職員と連携し、24時間の協力体制を築いている。	協力医以外のかかりつけ医とは、情報共有や連携の機会が希薄である。協力医同様に、緊急時の対応や重度化に際して相談できる関係を築くよう一考願いたい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専任の看護スタッフを配置し、スタッフが日常生活の関わりの中でとらえた情報や気づきを看護スタッフに報告・相談をし、情報を共有できるようにしています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、安心して治療できるようにまた、できるだけ早期に退院していただけるように病院関係者の方々と情報を共有したり、相談したりしながら関係づくりを日々行っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階で家族と話し合い、事業所でできることを十分説明しながら、地域包括支援センター等とも方針を共有してチームで支援に取り組んでいます。看取りケアも行っています	ホームにて最期を迎えたいという利用者、家族の意向を受け、昨年より協力医の了解を得て体制を整えている。ホームでの看取りの機会があり、医療関係者、家族、ホームの話し合いを重ね、適切な看取りを複数経験することができた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフは定期的に救命救急の講習を受け実践力を身につけています。またホーム会議でも急変時の対応などを看護スタッフ指導のもと勉強することで、急変・事故発生時に備えています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スタッフは年2回(夜間・日中)の消防・避難訓練を行い、利用者が安全に避難できるように方法等身につけています。地域の方々・家族・役場の方などにも参加していただけるよう早めに日にお知らせしたりしました。	年2回の訓練の内1回は消防署立ち合いの下、地域の参加する夜間想定、避難、消火、通報訓練を実施している。ホームの防災設備として通報システム、煙探知機、スプリンクラーを完備し、飲食品を備蓄している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしています	利用者の呼称は家族に確認し、利用者の希望に沿う呼称としている。職員は利用者のペースを尊重し、職員の都合とならぬよう注意している。異性の苦手な利用者の排泄、入浴支援は同性介助としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、できる限り利用者に関わりふれあう機会を多く持ち、一人ひとりの思いや希望を受け止め自己決定ができるように働きかけ支援しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、一日をどう過ごしたいか希望を伺いながら、その人らしく生活していただけるように支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コミュニケーションを図りながら、どんな色が好きでどんな服が好きなのかをスタッフが理解しそれをご家族との会話の中で伝えています。その人らしい身だしなみやおしゃれを楽しんでいただけるように支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れたメニューにしたり、季節の食材を使用し季節を感じていただいたりしています。また外食支援も取り入れ、食事が楽しみになるよう厨房スタッフと相談しながら行っています。食事作り・片付け等も一緒に行っています	調理専門の職員を配置し、温かく家庭的な料理を提供している。利用者の苦手な料理は別メニューに変え、飲み込みの難しい利用者は形態を刻みやミキサー食として楽しく安全な食事となるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事量や食事形態を工夫している。ミキサー食の方は見た目がどうしても悪くなりがちなので厨房スタッフが盛り付ける際、見た目や彩りにも気を配りながら、工夫しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを実施しています。また就寝前には入れ歯をお預かりし洗浄を行っています。アスナロ歯科に相談しながら、ケアしております		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりの排泄パターン・力・習慣を活かし理解しながらできる限りトイレでの排泄ができるように、声かけ・トイレ誘導し自立に向けた支援を行っています	職員は安易にオムツやリハビリパンツとせず、布パンツの生活の継続に取り組んでいる。利用者の排泄のパターンや日々の状態を見極めて適切な声掛け、誘導を行い、失敗のないトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日1000cc以上水分を摂取していただけるよう声かけ・支援させていただいたり、毎朝牛乳・きなこ牛乳等提供しています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴は実施しています。一人ひとりの希望・タイミングにできる限り合わせた入浴ができるよう取り組んでいます。 また季節のお風呂として、ゆずや菖蒲等も行っています	利用者の体調、気分を考慮し、入浴のタイミングを測って柔軟に支援している。季節を感じる菖蒲湯、柚湯を取り入れ、1階の大浴場と2階の家庭風呂を使い分け、気分を変えて楽しく入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、居室にて休んでいただいたり、テレビを観て過ごしていただいたり、その人らしく普通の生活を送っていただけるよう支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用・用法や用量についてスタッフ全員が理解し服薬の支援に努めています。 また変薬があった場合などはスタッフ間でしっかり情報共有し症状の変化などの確認に努めています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと・気分転換等の支援をし、張り合いや喜びのある普通の日常生活がすごせるように努めています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お一人おひとりの希望に沿って、外出できる機会を多く設けるようにしています。 また外出支援・外食支援も月に1回はできるように考え支援しています	日課の散歩、喫茶店でのモーニング、外食、カラオケ、買い物、自宅外泊、地域の花火大会、初詣などの多くの個別外出を支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	趣味の裁縫をするための材料購入や、お花の購入、また買い物にでかけたときには、ご自分の好きな物をご自分で買っていただけるよう支援しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により、電話をかけていただいたり、お手紙を書かれるかたもみえます。入院している奥様の元へ定期的にお見舞いに行ったりもしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感・季節感を考え、掲示物等工夫したりしながら利用者が居心地よく過ごせるような空間を作っている。またフロアには季節の花を置くようにしたりアロマオイル・ソリュションウォーター・タクティールケアなどで香りや癒しにもこだわっています	尿臭などの嫌な臭いのない、掃除の行き届いた清潔な空間である。入口からリビング、居室まで死角のない構造のホームは、利用者の安全の確保を容易にし、利用者、職員の穏やかに暮らす居場所である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、ソファにて気の合う利用者同士でお茶を飲みながら過ごしたり、歌を唄ったり、本を読んだり等思い思いに過ごせるように工夫しています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたものや馴染みの物・好みの物等設置し、ご利用者様や家族と相談し工夫しながら居心地よく過ごしていただけるような環境づくりを行っています	希望があれば、床に畳や絨毯を敷くこともできる。馴染みの家具、好きな音楽のカセットテープ、個人購読の新聞、趣味の絵、犬を飼っていた利用者は沢山の犬のぬいぐるみを持ち込み、個性のある居室としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの「できること」「わかること」などを理解し活かしながら、安心・安全にできるだけ自立した生活を送っていただけるように工夫しています		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191300025		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホームさかほぎ 2F		
所在地	岐阜県加茂郡祝町酒倉1296-1		
自己評価作成日	平成27年 9月30日	評価結果市町村受理日	平成27年12月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JkyosyoCd=2191300025-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成27年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年に引き続き臨床美術+タクティールケア+日常的な支援(個別支援)+今回も地域との交流・家族との交流に力を入れ実施しております。地域の方々・ご家族様とも多くふれ合う機会を設け地域の方々やご家族様が気軽に遊びにこれるような、地域とご家族様・ご利用者様の笑顔をつなげるように…という思いでスタッフ一同取り組んでいます。

その人らしく、普通の生活を送っていただけるように…そして一人でも多くのご利用者様に「ここに来て良かった」と言っていたただけるように、笑顔溢れる明るいホームづくりを目指し、日々支援・ケアをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『笑顔を笑顔の橋渡し』という事業所理念に基づいて、そのひとらしく笑顔溢れる明るいホームづくりをスタッフ同士心掛け声をかけ合いながら支援・ケアを行っています		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・お隣にDSと行事を行ったりし交流を図っています ・地域の行事に参加したり、またホームの行事に地域の方々に参加していただいたりしています		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの行事には地域の方々にも参加していたりしています。認知症キャラバンメイトの研修を受講し地域の方にもっと認知症を知っていただこうと思っています。福祉バスの活用や、公園の整備・ラジオ体操等にも参加しています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し日常のケアについてや取組・行事の報告等行い、ご意見等いただきケアの向上に活かしています ・年に1回の家族会も実施しております		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から連絡は密にとっています。事業所連絡会議に参加したり、事業所の運営推進会議にも参加していただいたりと情報共有しながら協力関係を築くように取り組んでいます		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッド柵・居室の施錠・玄関の施錠・身体拘束等の指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を理解し、ケアに取り組んでいます		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のホーム会議にて、ホーム内研修を行い、事業所内での虐待がないよう注意を払い、防止に努めています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修にて日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ちました		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約や退居時、また契約書の改定の際は、利用者や家族に不安や疑問点を尋ねながら説明を行い、理解・納得が図れるように努めています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来られた際や電話連絡があった際等、家族の意見・要望等を伺い、内容をスタッフ間で共有しながら運営に反映できるよう努めています。また家族へのお便りのなかでスタッフから家族へ情報の伝達も行っています。お便りも工夫しています		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のホーム会議・ユニット会議にて、スタッフの意見・提案を聴く機会を設けています。その他にも年に1・2回ですが、食事会などにて親睦を深めています		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフに自己評価・管理者評価を行ってもらい、スタッフの個々の努力・実績・やりがいなど、各自が向上心を持って働けるような職場環境づくりにつとめています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの研修等の機会を持ち、向上心を持てるよう努めています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のホームや施設を訪問したり合同レクを行うことで、良い点を取り入れ、サービスの質の向上に努めています。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際はアセスメントを行い、本人が困っていることや不安なこと・要望等を傾聴し、本人が安心して生活できるような環境・関係づくりに努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際はアセスメントを行い、家族が困っていることや不安なこと・要望等を傾聴し、関係づくりに努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族がまず必要としている支援を見極め、医療・サービス等対応できるよう努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは、日常生活の中で利用者ができることを見つけ情報を共有し、声かけしながら行っただけよう努めています。また一緒に寄り添いながら行うことで、暮らしを共にする者同士の関係を築いています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切に考え、毎月身元引受人に限らず、他の家族にもお手紙・お便りを送っています。手紙は手書きにこだわり、お便りは表情や様子がよりわかりやすく伝わるようにしたりご家族様からの意見も反映させるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の祭りや行事にできるだけ参加していただき、馴染みの方々との交流ができるよう支援に努めています。ホームの方にも地域の方々に来ていただき、関係が途切れないよう支援しています		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、関わり合い・支え合えるような支援に努めています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、病院や施設に会いに行くように努めています。これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて今後も相談や支援をしていきたいと考えています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用しながら、利用者の思いや希望・意向の把握に努めています		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用しながら、利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、また生活環境など本人や家族に伺いながら把握に努めています。スタッフ間で情報共有できるようにもしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、朝・夕に申し送りを行い、ホーム全体で情報共有できるようにしています。各フロアで今まで送りノートが1冊ずつありましたが、1冊に1本化し、ホーム全体で18名の利用者を支援していくという姿勢で現状の把握に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに見直しの際、フロアスタッフがモニタリングを行い、家族・スタッフがサービス担当者会議を開き、現状に即した介護計画を作成しています		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日報・介護記録に記入し、スタッフ間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況・ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない柔軟な支援やサービスに取り組んでいます。タクティカルケアの実践もケアに取り入れています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	坂祝町の幼稚園・保育園・小学校・中学校との交流ができ、ボランティアの方々も増えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及び家族の希望を大切にしながら、馴染みのかかりつけ医等に月2回往診に来ていただき、適切な医療が受けれる体制を築いています		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専任の看護スタッフを配置し、スタッフが日常生活の関わりの中でとらえた情報や気づきを看護スタッフに報告・相談をし、情報を共有できるようにしています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、安心して治療できるようにまた、できるだけ早期に退院していただけるように病院関係者の方々と情報を共有したり、相談したりしながら関係づくりを日々行っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階で家族と話し合い、事業所でできることを十分説明しながら、地域包括支援センター等とも方針を共有してチームで支援に取り組んでいます。看取りケアも行っています		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフは定期的に救命救急の講習を受け実践力を身につけています。またホーム会議でも急変時の対応などを看護スタッフ指導のもと勉強することで、急変・事故発生時に備えています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スタッフは年2回(夜間・日中)の消防・避難訓練を行い、利用者が安全に避難できるように方法等身につけています。地域の方々・家族・役場の方などにも参加していただけるよう早めに日にちをお知らせしたりしました。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしています		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、できる限り利用者に関わりふれあう機会を多く持ち、一人ひとりの思いや希望を受け止め自己決定ができるように働きかけ支援しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、一日をどう過ごしたいか希望を伺いながら、その人らしく生活していただけるように支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コミュニケーションを図りながら、どんな色が好きでどんな服が好きなのかをスタッフが理解しそれをご家族との会話の中で伝えています。その人らしい身だしなみやおしゃれを楽しんでいただけるように支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れたメニューにしたり、季節の食材を使用し季節を感じていただいたりしています。また外食支援も取り入れ、食事が楽しみになるよう厨房スタッフと相談しながら行っています。食事作り・片付け等も一緒に行っています		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事量や食事形態を工夫している。ミキサー食の方は見た目がどうしても悪くなりがちなので厨房スタッフが盛り付ける際、見た目や彩りにも気を配りながら、工夫しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを実施しています。また就寝前には入れ歯をお預かりし洗浄を行っています。アスナロ歯科に相談しながら、ケアしております		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりの排泄パターン・力・習慣を活かし理解しながらできる限りトイレでの排泄ができるように、声かけ・トイレ誘導し自立に向けた支援を行っています		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日1000cc以上水分を摂取していただけるよう声かけ・支援させていただいたり、毎朝牛乳・きなこ牛乳等提供しています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴は実施しています。一人ひとりの希望・タイミングにできる限り合わせた入浴ができるよう取り組んでいます。 また季節のお風呂として、ゆずや菖蒲等も行っています		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、居室にて休んでいただいたり、テレビを観て過ごしていただいたり、その人らしく普通の生活を送っていただけるよう支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用・用法や用量についてスタッフ全員が理解し服薬の支援に努めています。 また変薬があった場合などはスタッフ間でしっかり情報共有し症状の変化などの確認に努めています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと・気分転換等の支援をし、張り合いや喜びのある普通の日常生活がすごせるように努めています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お一人おひとりの希望に沿って、外出できる機会を多く設けるようにしています。 また外出支援・外食支援も月に1回はできるように考え支援しています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	趣味の裁縫をするための材料購入や、お花の購入、また買い物にでかけたときには、ご自分の好きな物をご自分で買っていただけるよう支援しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により、電話をかけていただいたり、お手紙を書かれるかたもみえます。入院している奥様の元へ定期的にお見舞いに行ったりもしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感・季節感を考え、掲示物等工夫したりしながら利用者が居心地よく過ごせるような空間を作っている。またフロアには季節の花を置くようにしたりアロマオイル・ソリューションウォーター・タクティールケアなどで香りや癒しにもこだわっています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、ソファにて気の合う利用者同士でお茶を飲みながら過ごしたり、歌を唄ったり、本を読んだり等思い思いに過ごせるように工夫しています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたものや馴染みの物・好みの物等設置し、ご利用者様や家族と相談しながら居心地よく過ごしていただけるような環境づくりを行っています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの「できること」「わかること」などを理解し活かしながら、安心・安全にできるだけ自立した生活を送っていただけるように工夫しています		